

錢中1年・齊藤君 スノボ全国大会へ

錢中1年の齊藤泰知君が、2月27日、第27回J.S.B.A全日本スノーボード・テクニカル選手権大会に出場した。北海道からは最年少出場という快挙。齊藤君は小学2年からスノボを始め、テクニカル資格に最年少の6年生で合格。1月26日に行われたJ.S.B.Aの北海道予選を12位で通過し、全日本への切符を手にした。齊藤君は「将来はプロになりたい」と抱負を語ってくれた。



【錢函の位置】錢函は、石狩湾のいちらん奥まつた所にあり、湾の砂浜が途切れる位置にある。眼前には日本海を臨み、錢函天狗の山々を背にして、豊かな自然環境に囲まれていて、海洋性気候で夏は海陸風が目立ち、冬の季節風は比較的弱くなっている。1年を通じて気温の格差なく比較的温暖な気候である。錢函はアイヌの人達が住む時代から、鮭・漁・鯨の場所として栄え、北海道開拓の父島義勇(しまよしき)が札幌に開拓府を建設するにあたり、札幌へ海から至る交通上の要地として仮役所を置いた場所でもあり、明治13年(1880年)鐵道開通時に小樽と共に

錢函歴史物語

(零) 錢函のなりたち

文／錢函未来歴史研究会

【開駅した歴史のある所である。】
【地名の由来】北海道の大部分がアイヌ語地名である。アイヌ語を漢字で表記したのは、明治2年(1869年)から、開拓使が漢字2字に收まるように配慮したといわれている。名前の由来はいろいろ言っている。名前の由来はいろいろ言っている。①アイヌ語で「セニ(シエニ)」(カシワの木)・「ポコ(ポク・パコ)」(ホツキ貝)という意味。セニパコがセニハコと永い間言い慣らされたものに漢字をあてたといわれる。②「ゼニ」は「ゼニ」で「狭い二シンの千石場所」と言つてゐる意味する。「ゼニハコ」は「崖下の海岸の集落」と言つてゐる。

「**【錢函の位置】**錢函は、石狩湾のいちらん奥まつた所にあり、湾の砂浜が途切れる位置にある。眼前には日本海を臨み、錢函天狗の山々を背にして、豊かな自然環境に囲まれていて、海洋性気候で夏は海陸風が目立ち、冬の季節風は比較的弱くなっている。1年を通じて気温の格差なく比較的温暖な気候である。錢函はアイヌの人達が住む時代から、鮭・漁・鯨の場所として栄え、北海道開拓の父島義勇(しまよしき)が札幌に開拓府を建設するにあたり、札幌へ海から至る交通上の要地として仮役所を置いた場所でもあり、明治13年(1880年)鐵道開通時に小樽と共に